

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成19年10月 第81号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

予防と看取り

団塊の世代が還暦を迎える年に当たり、20年から30年先を見越して、介護費や医療費の抑制策として、生活習慣病の予防と介護予防が大事だと言われています。本当に介護予防は、費用抑制の効果があるのでしょうか。

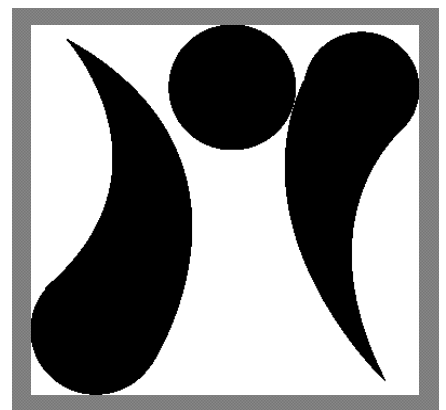
介護予防の努力をすれば、看取りの時が無くなるのなら、費用を抑制する効果は確実に上がるのだと思います。しかし、幾ら予防の努力をしても、全ての人に必ず看取りの時が訪れます。人にとって本当の看取りは一度きりですが、看取りにつながる危険性を感じる場面は、何度も繰り返します。ご本人が頻繁に不安を訴える場合もあれば、ご家族や介護者が心配を優先する場合もあり、CTやMRI等による検査や投薬が多用されています。それが、高齢者医療費の高騰につながり、後期高齢者医療制度の創設に向かいました。とすれば、費用抑制の効果如何は、看取りを迎えるまでの意識と暮らしに掛かってくるのです。看取りに備えての準備が最も重要なのです。

最近、ケアハウスでお2人の女性を見送りました。お一人は、今年の暑い夏にも係らずエアコンを嫌い、リウマチの痛みやお兄様への遠慮・お金の心配、隣人への不信など、生活に多くの課題を抱えながら、職員の脱水への心配を他所に、頑固に自分の感覚と流儀を押し通して、82歳で亡くなりました。

もうお一人は、老いによる心身の衰えを受入れられず、身の置き所の無い不快感を頻繁に訴え、数日前には救急車で病院に行き、ご子息への電話やナースコールが絶えない日々を過ごしながら、95歳で亡くなりました。

(次ページにつづく)

せいりょう園 渋谷 哲



(前ページのつづき)

お2人とも、ホームヘルパーが定時の訪問時に気づきました。精一杯、ベストを尽くした暮らしの中で、自らが一人で引受け完結させた最期に敬意を払いながら見送りました。

見送った後の介護・看護職員には、様々な反省点が浮かび、最期がこの時で良かったのか、との疑問が付きまといます。看取りの介護には、満足感や達成感を求めてはいけないような雰囲気があります。

最期の姿を肯定する視点と物差しを持ちたいと思います。生身の体が自然の摂理に添って迎えた最期は、尊いもの。生活の主体者として課題に向き合い、自らが引受け完結させた最期の姿は、尊敬に値するもの。

生きる事の主体者、生活の主体者としての立場を護り、不自然な力に左右されないように暮らしを支え、その最期を見届けた介護・看護のスタッフは、永い人生の最期の姿に敬意を払い、その完結をお祝いしたいと思います。ご本人やご家族とも満足感を共有したいと願います。



デイサービスご利用の長永かつ子様作品集

〔長年趣味として水彩画をされていますが、いつも描写が細やかで生き生きと描かれています。〕



第二回 グループホーム 運営推進会議の報告

日時 平成 19 年 9 月 22 日(土) 14:00～16:00
場所 リバティかこがわ 2F ホール
参加者 推進委員 8 名 (家族 2 地域 2 関係組織 2 グループホーム 2)
利用者家族 4 名
利用者 1 名
加古川市介護保険課 1 名

- 議題 1. グループホームでの看取りについて
2. 地域の一員、家族の一員としての暮らし
 3. 行事報告

前回と同様参加者全員の自己紹介の後、議題 1 についてまどか入居者 (H19 年 6 月死亡) の H・T さんの入居から看取り迄の経過を報告。続いて議題 2 は、資料 4 部を配り施設長が話をした。

- ・ 9 月より移動し始めたユニット型の特養について
- ・ 「環境を変えると認知症が進む」のは本当なのか?
- ・ 頻繁に外出される認知症者の介護について
- ・ グループホームにおける胃ろう、気管切開をした人の介護について

次に前回の会議以後に施行した行事報告と実習生の受け入れ状況の詳細説明をした。

最後にそれぞれ意見交換をして終了した。

家族・推進委員の意見

- S 氏 外出している利用者につき添っている職員を度々見掛けるが本当に大変だと思う。
- M 氏 行事に参加した際、後で本人に尋ねてみるが全く覚えていない。忘れるのではなく、覚えることが出来ないということを最近になって認識出来るようになった。
- U 氏 行事に参加していた時の様子を其の都度職員から報告を受けるが、楽しんでいる様子が伺えるので覚えていなくてもその瞬間快く過ごしていると思うと安心している。
- A 氏 インシュリン施注の必要な方が近所に独居でいたが、常に不安感を持っていて回りの住民に再三依存することが有った。ショートステイで老健に入居中の現在、心身共に大変落ち着いている。
- I 氏 入居中の義母に最近、昔の仲良しグループから誘いが来ている。参加してもらったほうが良いのか迷っている。
- S 氏 全く抑制もなく自由に外出できる環境は利用者にとってはとても良いと思うが職員が大変ではないか。

毎日新聞(10/24朝刊)に、認知症で嚥下障害のある要介護度4の男性(94歳)が、ショートステイ利用時にパンをのどに詰まらせて死亡した事故の解説記事が載っています。裁判官の勧告により、施設が1500万円を支払って和解が成立しています。

新聞記事のみの情報で、詳細については不明な中での軽はずみな判断は避けたいと思いますが、1500万円支払いの現実、介護者側の配慮と責任を非常に重く見て判断されているように思われます。介護事業者と介護業務従事者にとって、非常に重要で重大な事態であり、自省を込めて自らの業務を振り返りたいと思います。

また、他者の介護で生きる人にとっても、生きる主体としての責任と尊厳、生活主体者としてのQOL等、老いて死を迎える過程を生きる人にとっての、思想や価値観への鋭い問い掛けが潜んでいるように思います。

介護の世界では今、自立支援と地域ケアが最も主要な課題です。運動機能と判断能力を保持している人への自立支援は、概ねの共通理解ができていのですが、運動機能が低下し認知障害が進行するに連れ、生活行為の自立は出来なくなり、残るは存在自体の自立を図るのみとなります。其処での「自立した存在」についての共通理解が、今の日本社会には殆ど浸透していないように思います。その隙間で事故が起こり、こじれているのだと感じます。

現在の日本では、認知症により判断能力がなくなった人は、法律行為の責任主体ではなくなり、成年後見制度により代理者が選任され、そのサポートにより社会人として暮らすこととなります。それを受けて介護保険法は、地域社会の一員として生活の主体者であり続ける為の自立支援を、介護職に求めているのです。地域ケアは、生活の主体者としての暮らしの実現を地域と介護者に委ねているのです。法律行為の責任主体ではなくなっても、自らが生きる事の主体性までも無い人として捉える事は、一個の生活者としての自立と尊厳を否定する事になり、法の趣旨に反すると思っています。

老いと死は自然の摂理であり、人には、老いに因り生じる様々な生活課題やリスクを自らが引き受けながら、懸命に生きて人生を完結する努めがあるように思います。その完結に至る老いの生き様が、同じく自然の摂理である出産と子育てにも繋がっているように感じます。葉っぱのフレディは、枝から離れて土に還り、永遠の命を獲得します。日本には、死後も何かに生まれ変わって生き続ける輪廻の思想があります。老いて迎える死は、人生の完結を祝う尊い瞬間であって欲しいと願います。

自然の摂理に添った老いの生き様が、死を巡る豊かな思想を生み、明るい未来に繋がる事を信じます。この事件を契機に、老いの生き様についての議論を深め、その輪を拡げたいと心より願います。

せいりょう園待機者状況

<平成19年10月18日現在>

判定済み者：219名

グループ……90名 グループ……82名 グループ……46名

せいりょう園入所……1名

判定済待機者(218名)の内訳

在宅75名 / 特別養護老人ホーム入所中6名 / 老人保健施設入所中63名

医療機関入院中63名 / ケアハウス入居中5名 / グループホーム入居中6名

仏教講話より

デイサービス 谷澤 高明

昨年12月から始まった仏教講話も、ほぼ1年が経過しました。

その間、お寺のご住職初め各界の方に講話をお願いしたり、瀬戸内寂聴氏、高田好胤氏のCDを視聴したりしてきましたが、ある時期から市内の仏教協会から順次住職の方に来て頂き法話を担当願っています。

今回は市内西神吉町にある、浄土真宗 西本願寺派 正念寺 谷川住職に来て頂きました。親御さんもご住職されている様子で、中堅クラスの清々しい感じの漂うご住職でした。

本題に入る前のプロローグでこのようなことを話されました。

「こちらにお邪魔するのが初めてでしたので、少し時間的に余裕を持って来たのですが、側まで来て入り口が分からず、回りをぐるぐる巡ってしまいました。信号の無い交差点で、私の方は急がないし、地理にも不案内なので一旦停止して『お先にどうぞ』をしたのですが、相手はお礼の一言はおろかちょっとした合図もせず、知らん顔して行ってしまいました。無性に腹が立ちました。そしてそんな自分に気付いて思いました。

自分も僧侶として生活をし、外見では「良い事」をしても心の中では腹を立て、煩惱いっぱい自分である。こんな私は・・・、こんな私は・・・、とってしまいます。

しかし、こういう私だからこそ「阿弥陀佛」の救いの対象にあり、お念仏（南無阿弥陀佛）を称えさせられる身にあるのだと思い知らされます。ここから本題に入っていきます。

「人が『南無阿弥陀佛』と称える時、手を合わせるのは何故でしょう？人が忙しく仕事をしている時はしきりに『手』を動かしているのです。『忙しい』と言う字は『𠄎』（リッシンベン）に亡と書きます。『𠄎』は心、即ち『忙しい』とは心を亡くした状態を言います。『忘れる』も心を亡くすることです。忙しさにかまけ大切な事を忘れてしまう、心を亡くすることなのです。

仕事の手を休め、心を取り戻しいろんな大切な事、物、者そして自分自身に思いを巡らす為、手を合せ心静かに「南無阿弥陀佛」を称えます。

ところで『南無阿弥陀佛』とはどういう意味でしょう。

『南無』とは帰命(きみょう)[身命を捧げて仏に帰順すること]、柔らかく言えば[全てお任せします、拠りかかります]という意味です。

『阿弥陀様』は限りない生命、知恵を持っていて、誰をもあるがままで救って下さる方です。

『佛』とは、仏の光に照らされた時、ホッと心の硬さが溶かされる状態を言います。

親鸞聖人は声を出して『南無阿弥陀佛』と称えなさいと説かれます。自分の称えた言葉を自分で耳にした時、その声は「阿弥陀様」の発せられる言葉なのだと言われています。

即ち『南無阿弥陀佛』とは、「阿弥陀様」の『私に任せていいのですよ、ありのままのあなたで良いのですよ』との呼び声なのです。その呼び声に

答え『こんな私の全てをお任せ致します』と称えているのです。いかなる時でも、いかなる私でもそのまま受け取ると誓って下さる『仏様』がおられることに、我々は心に絶対的な安らぎを感じることができるのです。

自分が称える『南無阿弥陀仏』も、実は「阿弥陀仏」の切なる願いによるもので、「称える」のではなく、「称えさせられている」のである。([南無]と[佛]が応答で、それが[阿弥陀様])

法話の最後に蓮如聖人が弟子達に説かれた文言集『御文書』を称えられ、終了した。参加した人達の評判もよく、時間的にも30~40分位なのでグループ各所の利用者にとっても負担は比較的少ないのではと思われますので参加者の増えることを切望しています。

(毎月第1月曜日 午後3時より)

10月の行事 ~運動会(10月24日)~



運動会のメインの大玉ころがし
力を合せて押します



かわいい園児達の鼓笛隊です
楽器が大きく感じます

ケアハウス等空き情報 <平成19年10月24日現在>

<ケアハウス>

- | | | | |
|----------|-----------|-------|-----------|
| ・めぐみ苑 | : 1人部屋 4室 | ・香楽園 | : 2人部屋 2室 |
| ・シスナブ御津 | : 1人部屋 1室 | ・保月の郷 | : 2人部屋 2室 |
| ・志深の苑 | : 1人部屋 2室 | ・青山苑 | : 1人部屋 2室 |
| ・キャッシル真和 | : 1人部屋 1室 | ・あさなぎ | : 1人部屋 1室 |



[問合先] せいりょう園介護相談室 (079)421-7156/(079)424-3433



地域支援センターのぐち南 相談員 吉田 知一

「見守りネットワーク」という言葉をよく耳にするのですが、それがどういったものなのか、本当にそのようなネットワークで見守りをしているところがあるのだろうか、という疑問を持っていました。そんな時に福岡県大牟田市で「ほっと・安心（徘徊）ネットワーク模擬訓練」という取り組みをしていることを知り、地域活動のヒントを学んで帰ることが出来ればと考え、9月23日に大牟田市で開催される第4回ほっと・安心（徘徊）ネットワーク模擬訓練を見学しに行くことになりました。

大牟田市はもともと炭鉱の街として栄えていましたが、ピーク時の人口21万人から徐々に減少していき、13万3千人（平成18年）となり、高齢化率も27.7%で10万人以上の都市においては全国1位の高齢化率となりました。大牟田市が、実際に抱えている高齢者問題として孤独死や認知症を患っている方の徘徊による交通事故が多く、模擬訓練を開催している一昨年でさえ、徘徊による行方不明及び亡くなった方が2名、去年は1名でした。こういった背景もあり警察、消防の協力を得る事が出来るようになったそうです。

第一回目は規模も小さく、^{はやめ}駿馬南という一つの小学校区だけの開催でした。地域住民独自の団体である「はやめ南人情ネットワーク」や民生委員などの口コミだけで広がったそうです。回を重ねるごとに、範囲、ネットワークが広がり、今回は市内全域7ヶ所の拠点を中心に行われ、参加者は1000人にもおよび、想像以上の規模で開催されました。街中にも今回の訓練開催ののぼりがたくさん立てかけられていました。参加機関も社会福祉協議会、町内会、民生・児童委員協議会、老人クラブ、警察署、消防署、タクシー協会、西鉄バス、JR大牟田駅、コンビニエンスストア、銀行、郵便局、介護サービス事業者協会、地域包括支援センター、介護予防・地域拠点交流施設、認知症の人と家族の会福岡県支部、など大牟田市の各関係機関が幅広く参加。市役所の方にお話を聞くと、準備に忙しく昨日から一睡もしていないとのこと。大牟田市をあげての大きなムーブメントであると感じました。

大牟田市の徘徊見守りネットワークは、行方不明の認知症の人を迅速に発見することを目的としていますが、ネットワーク形式を通して認知症の人とその家族の理解や地域コミュニティの再構築など、むしろ多職種・多世代・多分野にわたる地域協働のまちづくりを進めることを目的としているようです。こういった、町内会や民生委員などの地域住民が中心となって作っているネットワークは、細かすぎると逆に認知症の方の徘徊を監視するネットワークになってしまいがちですが、当日の開会式で行われた事前のミニ学習会で、監視にならないような見守りをする為に、市民の認知症の理解と、認知症でも安心して暮らせるまちづくりをモットーに徹底して取り組んでいました。認知症の方が徘徊するという側面だけを見るのではなく、住み慣れた地域で最期まで暮らせるまちづくりをテーマにしていることが良く分かりました。そこには、行政の縦割り、事業者の営利、専門職の偏った考えなどが排除され、本当に今、何をすべきなのか、大牟田市に何が必要なのかを皆が理解し、地域住民に還元しているようにも思いました。

模擬訓練の内容ですが、大牟田市には介護予防拠点・地域交流施設という地域活動の拠点となる場所が、市内24校区に一ヶ所ずつ設置されています。そのうちの7つの拠点で今回の徘徊模擬訓練が行われます。初めに徘徊者の家族が警察へ通報します。警察では、本人の特長など事細かに聞き取り、その情報を消防にFAXします。消防では、受け取ったFAXを元に消防団員、消防職員合わせて850人にメールにて一斉送信。そ

の後、市役所の安心安全課より地域住民 200 人が加入している SOS 愛情ネットでメールにて個人情報削除した部分を一齐送信。通報から手元の携帯電話にメールが届くまでの時間は、約 15 分ほどでした。こうして、徘徊見守りネットワークが発動した訳ですが、地域住民の方々には監視にならないように、普段と同じような生活をしてもらうよう念を押して一時解散。

モデルとなる徘徊者は全員で 15 人です。そのうち本物の樋口さん（仮名）は一人で残りの 14 人がダミー。ダミーに声をかけると「ありがとうカード」がもらえます。目印となるものは黄色い傘、白いブラウスに青いズボン。訓練は本物の樋口さん（仮名）を発見し本部に連絡すると終了しますが、見つからない場合は終了予定時間まで続きます。発見の連絡は、直接警察署ではなく、介護予防・地域拠点交流施設にまず連絡します。110 番通報と重ならないように徘徊するルートは決まっているとのことでした。

訓練後、認知症家族の会の会長でもある、モデル徘徊者の方が「皆さんやさしい声かけでした。今回、服装が黄色い傘、白いシャツ、青いズボンと決まっていたので、初めから認知症の方であるとして声をかけてくる方が多かったが、実際の認知症の方は傘を置いていたり、服を脱いでしまったりすることがあるので必ずしも情報と一致はしない。それに、想像以上に健脚な方がいらっしやるので、通過地点も情報通りではない。名前や住所を聞く際にも、嫁に行く前の旧姓を名乗ったり、出身地も子供の頃に過ごした場所を言ったりするので、気をつけてください。」と非常にリアルな感想を聞くことが出来ました。

このような、地域住民を巻き込んだ大規模な取り組みが成功したきっかけや仕掛けは一体何だったのか……。それは、大牟田市には介護保険事業者が集まる協議会があり、その事務局を市役所が行っているという背景があるようです。行政のバックアップもあり、この大牟田市介護保険事業者協議会が中心となり平成 13 年地域認知症ケアコミュニティ推進事業・認知症ケア研究会発足。平成 15 年認知症コーディネーター養成研修事業がスタートします。最初のきっかけは、どの施設のサービスを選択しても一定の水準のサービスを受けることが出来るように、という利用者主体の考えから生まれたものでした。今回の模擬訓練は、この認知症コーディネーター養成研修の卒業生が中心となって、声をあげていき、行政、警察、消防、そして地域住民を動かしていったという背景があるようです。

加古川市には、大牟田市とは違った背景があります。大牟田市と同じことが出来る訳ではないと思います。しかし、普段の相談を受け、地域活動をしていて思うことは、最後まで住み慣れた場所で暮らしていきたいという気持ちは、加古川市でも同じなのだと思います。大牟田市のような大きなムーブメントを起こすことは、皆に意識してもらって、介護に対して興味を持ってもらうきっかけ作りなのだと思います。加古川市でも少しずつ声をあげていけたらと思います。

*** * * * * せいよう園の行事予定 * * * * ***

11月 7日(水)誕生会

11月 9日(金)外出

11月 13日(火)昼食会(うどんすき)

11月 15日(木)秋の合同消防訓練

11月 16日(金)介護者の集い

～感染症対策について～

11月 19日(月)美容の日

11月 23日(金)外出

11月 26日(月)理容の日

11月 28日(水)郷土料理の日(鮭の混ぜ寿司)



*** * * * ***